

## 第2学年 生活科学習指導案

- 1 単元名「大すき！わたしたちの町Ⅰ」
- 2 単元の考え方

### こんな児童だから

〈教材内容〉

本学年の児童は、1年生の学習で、校区の公園で遊んだり春夏秋冬みつけをしたりと、何度も校区を探検している。また、1学期に校区の生きものを採育育てる中で、生きものとふれ合う楽しさに気づいている。しかし、多くの児童は、地域にある様々な場所やそれを支えている人たちのよさに十分気づいているとは言えない。

〈児童の基礎・基本の力〉

- ・ 児童は校区の様々な場所や人に親しみをもって、やってみたいことを見いだすことができる。
- ・ 1学期の学習で、五感を通して野菜や生きものを観察したり、育て方を考えお世話したりすることができるようになってきた。また、図鑑等で自分の知りたいことを調べることができるようになったが、わからないことを友達や周りの人に尋ねる姿はまだあまり見られない。
- ・ 1年生との学校探検で、一緒に探検することの楽しさに気づいたり、相手に優しく接することができるようになったりした。
- ・ 生きものを育てていく中で、成長の変化に気づいたり、愛情をもって接したりすることができるようになってきた。

〈今まで経験してきた表現活動・交流活動〉

- ・ 活動の中で、ほぼ全員が活動を楽しみ、「おもしろかった」「楽しかった。」という思いをもつことはできる。しかし、「何がおもしろかったのか。」「どんなことが楽しいのか」詳しくかける児童は全体の七割程度である。「生き物が元気になったのは、こんなお世話をしたからだ。」など、自分とのかかわりにまで気付くことができる児童は、四割に満たない。しかし、かくことは苦手でも、言葉で答えられる子も見られる。
- ・ 活動を振り返って、うれしかったことや困ったこと、次にやってみたいこと等、自分の思いにあった色のふりかえりカードを選んで、自分なりの思いをかこうとする意欲が高まってきている。
- ・ 交流活動では、九割程度の児童がグループの友達と意見を話し合うことができるようになってきているが、自分の気付きと友達の気付きを比べたり関係づけたりして考えることは、十分ではない。
- ・ 今までの気付きを、紙芝居やクイズ・劇・図鑑づくり等の表現方法から選んでまとめ、1年生と交流をした。

### こんな教材で

校区の町は、海が近く、〇〇の漁港があり、豊漁を願って立てられた恵比寿神社がある。玉せせりは、1月に本校にもまわってくる。学校の近くには、買い物によく利用するハイマート、ダイケアサービスセンター、郵便局がある。隣の短大の保育科の学生は留守家庭の児童と交流をしている。学校の一角には公民館があり、土曜日に児童に読み聞かせをしたり、地域の行事・サークル活動と、様々な人々が利用して生活を豊かにしている。公園は児童にとって親しみ深いところだが、公園の維持のために努力している人々の姿を児童が感じる機会はない。また、校区の町は、夏祭り・ペーロン大会・運動会・餅つき大会・どんど焼きと、地域をあげての行事が多数あり、児童も気軽に参加できる。

① 家族と友達以外の人々とかかわりがうすい児童達にとっては、この教材で、自分のめあてにそって友達と一緒に探検する調べ学習を体験したり、自分から進んで人とかかわりながらより深く広く地域のよさに気付くことのできる学習は、価値あることである。

② この教材を通して児童には以下のような力が身に付くと考えた。

日常生活の中で、近くを通っていてもあまり意識していなかった場所・地域の様々な人々とかかわれるところを中心に題材として取り上げ、探検を繰り返すことで、児童の人とかかわりが広がり、地域に対する愛情を育て、地域の中での自分のかかわり方を考えることができる。平日・祝日を問わず児童が気軽に出入りができ、地域の様々な人とかかわることができる公民館を探検することは、地域のことに関心をもたせ、かかわるよさをもたせることにとても有効である。また、単元が終わった後も、引き続き児童自らが公民館に足を運び、地域の人とともにかかわることができる。

また、漁港及び十日恵比須神社を探検することで、地域に根ざした行事や、行事に根ざした人々の暮らしを実感させ、人々の願いが昔から引き継がれていることを知ることに意義がある。さらに1月の玉せせりなど、伝統行事に自分もかかわりたいという態度を育てるのに有効である。また、漁港であるので、安全にも意識を向けることができる。

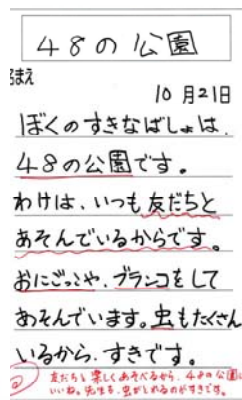
ダイケアサービスセンターでは、人々が支え合っていることに気付き、自分もお年寄りに親切にしたいという思いを高め、かかわり方を考えるのにとっても意義がある。また、設備の工夫をみて、バリアフリーや福祉に関心をもつ素地を養える。他にも、短大なども、児童の実態に合わせて取り上げる題材を決めることができる。

以上のことから、本教材で生活科学習指導要領内容(3)「自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」という内容を達成できると考えた。

研究内容① 考えをつくり、高める表現物づくり

こんな表現物で

【であう】発見カード「校区の町のすきなところとそのわけ」



【交流活動前までに】

校区の町について、自分のすきなところをかかせる。このカードをかかせることで、次の活動「校区探検にいこう」へのめあてにつなげることができる。「そこは、何をするとところなのかな?」「他にどんなことを知っているの?」等、地域のある場所と人・自分とのかかわりに気付いていけるように促していけるコメントを書く。そのことで、地域への関心を高めることができる。

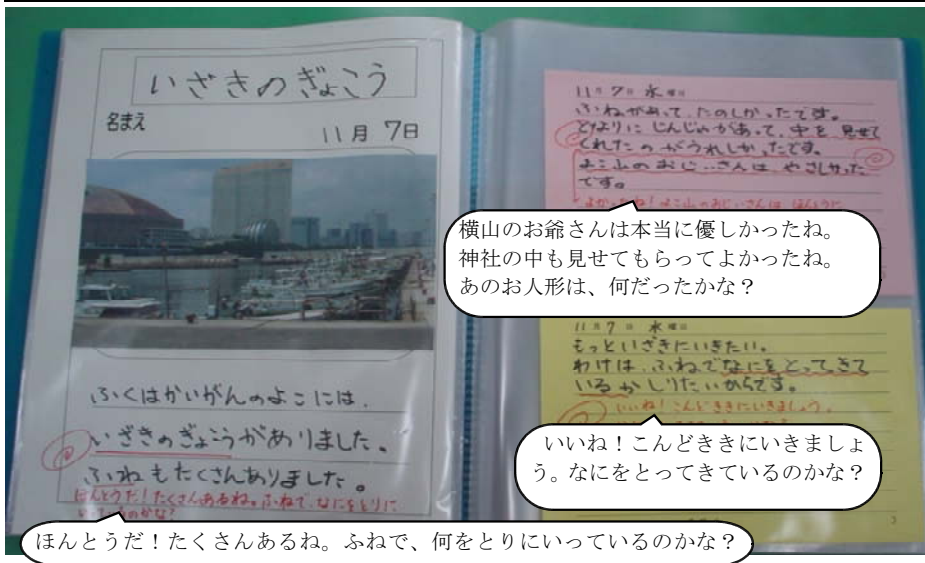
また、このカードを次の交流までに教師が見取ることで、児童の興味・関心・気づきについて知ることができ、どのような話し合いをしていけばいいか具体的にわかむことができる。交流時には、特に、「○○という所にいったら○○さんがいる」等、人への気付きに着目させたい。

貝がらがたくさんあるところがすきなですね。ふねは、どこにいてるのかな?

本がすきなだね。こうみんかんに本があるなんて知らなかったよ。本のほかに、何がありましたか?

友達と遊べるから、48の公園はいいね。先生も虫がとれるのがすきです。

【やってみよう】発見カード「探検して見つけた○○のすきなところ」(左)とふりかえりカード(右)



横山のお爺さんは本当に優しくったね。神社の中も見せてもらってよかったね。あのお人形は、何だったかな?

いいね! こんどききにいきましょう。なにをとってきているのかな?

ほんとうだ! たくさんあるね。ふねで、何をとりについているのかな?

校区探検をして気付いたことを、発見カードにかいていかせる。これは、探検中にかかせることで、その時の気付きをすぐ表現できる。ふりかえりカードは、探検の自分の思いを書かせる。そのことで、児童の意識を教師が読み取り、これからの交流活動にいかすことができる。

また、コメントを書くことで、児童に意欲やこれからの学習のめあてをつかませることができる。1回目・2回目・3回目と活動ごとに見開きでファイルさせて、交流活動に活用させる。

【もっとやってみよう】ポスターセッションでの交流後のふりかえりカード

交流活動後の振り返りカードの例  
 楽しかったこと (黄色)      もっとしたいこと (黄色)      困ったこと (水色)  
 よかったこと (ピンク)      助けてほしいこと (水色)

月 日 曜日  
 こうみんかんの人たちはみんなやさしかったことをつたえました。○○さんからほめられて話し方が上手とほめられました。うれしかったです。5人もきてくれてうれしいです

月 日 曜日  
 ○○くんの、いざきのみなどの話がよく分かりました。新聞にしゃんをのせていて、じょうずでした。ぼくもこんどいざきに行ってみたいです。

月 日 曜日  
 分かりにくいと言われてしまいました。魚の名前を今度ききにいきたいけれど、いついけますか。教えてください。

今までのカードや活動から得た気づきをもとに、新聞・紙芝居等、様々な表現方法を児童自らが選択し、地域の人に分かりやすく伝えようという意識を得た気づきをまとめていく。

交流活動では、お互いよさを認め合う活動の後、ふりかえりカードを書かせる。そのことで、友達や自分のよさ、地域と自分とのつながりを表現させ、次への交流につなげていくことができる。このカードや、交流時の様子をみとったカルテをもとに、①地域へのかかわり方②地域のよさ③友達や自分の表現のよさの視点で単元最後にふりかえることができる。

## 研究内容② 表現物を活用した交流活動の工夫

【であう】地域に関心をもち、地域の人・もの・ことについて調べたいことを見いだすことができる。

### 課題を発見する力

この段階では、今までの経験や体験活動を通して得た気付きをもとに、これからの活動への意欲をもたせたい。そのために、前時までの発見カードをもとに全体交流をする。

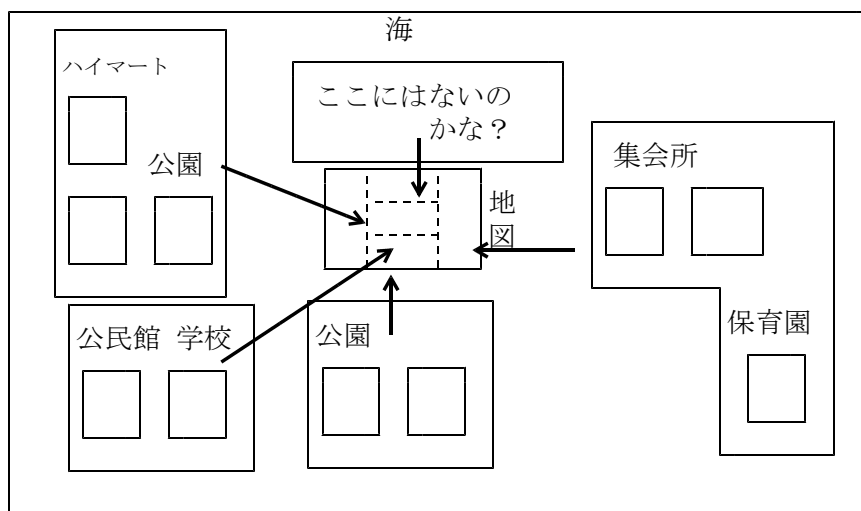
### 交流の組織化

校区の地図を使って、自分の好きなどを発表させながら、校区の町の場所別に掲示していく。そのことで、校区には、まだ自分たちが知らないところがあることに気付かせることで、次のめあて「知らないところを探検しよう」につなげることができる。また、自慢を発表させながら、校区の町の場所別に掲示していく。その中で、児童の気付きのあやふやさに注目させ、「もっと〇〇のことを知ろう。」というめあてにつないでいくことができる。

これからの活動へのめあてにつなげ、児童の気付きを広げていけるように、カルテをもとに、交流させていく。

児童の気付きを黒板に掲示していく。そのことで、気付きの広がりを見せることで、よりかかわりたい・知りたいという意欲を高める。交流の終わりには、次への活動のめあてを児童とともに確認できるようにしておく。

〈板書の例〉



### 場の構成

地域行事について〇〇タイムで児童と話し合ってきたことを掲示する。このことで、普段の生活でのことを想起しやすくなる。

【やってみよう】地域のよさを見つけ、より深く広く気付き、自分とのかかわりについて考えることができる。

### 考える力

### 交流の組織化・場の構成

この段階では、今までの体験活動を通して得た気付きを、発見カードやふりかえりカードをもとにして交流しあうことで、自分や友達が見つけた〇〇のよさの共通点や相違点を見いだしていく。そして、共通点を見つけていく過程で自信を、相違点を見つけていく過程で自分や友達の気付きのよさや気付きの広がり等をもたせていきたい。そのために、まずは、同じコースの児童の小グループを作ってグループの中で一人一人に気付きを表現させていく。話し合いが活発になるように、カルテを活用していく。

小グループの交流の後、ふりかえりカードを書かせる。

そして、地域のよさ（地域の人々の優しさ・努力している姿・支え合っている姿・楽しんでいる姿・人々が集う場所があること・それらの施設の使い方・意味）や自分とのかかわりについて交流していくことで、自分もそれらに参加してみたい、もっと知りたい、前よりも地域のことが好きになったという意欲を高めていきたい。そしてその後、ハートの大きさで今までの地域に対する思いが大きくなったことを視覚的にとらえさせ、次の活動へとつなげていく。

【もっとやってみよう】気付きを相手に分かりやすく伝えたり、自分や相手の気付きのよさを見つめることができる。

### 人・もの・ことにかかわる力

### 交流の組織化

教師は、カルテをもとに支援していく。また、活動の後にふりかえりカードを書かせ、児童の実態を把握する。そのことで、自分のよさに気付かせたり、友達のよさを伝えたり、自分と地域とのつながりに気付かせていく。この交流で得た気付きを教師は授業後に新たなカルテに書き入れ、単元最後の振り返りの時間に活かす。

### 場の構成

この段階では、今までの気付きをもとに、様々な表現方法でまとめた児童が一人一人、校区の自慢について発表し、これからどう地域と関わっていくか、〇〇の町のよさ・友達や自分のよさに次第に気づいていく交流になる。そのために、内容別にポスターセッションの形をとる。



## こんな目標と指導計画で

### 3 単元の目標と指導計画

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学ぶ意欲・態度               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校区の人々や様々な場所・物事に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げ、地域をもっと大切にしようとする事ができる。</li> </ul> </li> <li>○ 問題を解決する力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校区の人々や様々な場所に興味をもってかかわりながら、地域のよさについて調べたいことを見いだすことができる。 (課題を発見する力)</li> <li>・ 校区の様々な場所の特徴や人々の活動の様子を見たり、インタビューをしたり、共に参加したりしていくことができる。 (人・もの・ことにかかわる力)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のよさを見つけたり、自分の生活とのかかわりについて考えることができる。 (考える力)</li> </ul> </li> <li>・ 発見したことを相手に分かりやすく伝えたり、自分と相手の意見を比べながら交流したりすることができる。 (表現する力)</li> <li>・ 発見カードで、地域の人・もの・ことについて分かりやすくかいたり、ふりかえりカードで、自分の思いや願い・気付きを表現することができる。 (表現する力)</li> </ul> </li> <li>○ 生きて働く知識 (見方・考え方)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人々が、生活を支えたり豊かにするために様々なことをしていることに気付くことができる。</li> <li>・ 地域の人々や様々な場所にかかわることで、自分の生活が楽しく豊かになることに気付くことができる。</li> <li>・ 地域の人々に親しみをもち、自分が地域とどうかかわったらいいか適切なかかわり方に気付くことができる。</li> </ul> </li> </ul>	
段階	配時	学習活動と内容	基礎・基本の力と支援 (※) 留意点 (○)
で あ う	帯 タ イ ム 2	0 夏休みの思い出を話し合ったり、地域の行事の後、校区のことを話し合う機会を随時とる。そのことで、地域への関心を少しずつ高めていく。  ① 1 校区の町について話し合い、単元のめあてをつかむ。  (1) 校区の町についてすきだと思うところとそのわけについて話し合う。 ・ 校区の町は好きか・・・そのわけ ・ 自分のすきなところを知らせ合う。 ・ ○○のいいと思うところを探しにいこう (2) 校区の町のすきなところを探して、発見カードにかいてくる。  ① (3) 自分で見つけてきた校区のすきなところについて話し合い、単元のめあてをつかむ。 ・ 好きな人・ところについて 校区の町のすきなところをたくさんみつけよう。	○ 単元前にアンケートをとっておき、児童の意識を把握しておく。 ・ 好きな場所はあるか ・ あるなら、どうして好きなのか。 ・ よく挨拶する人はいるか。 ・ 知っている人は、どんな人がいるか。 ※ 地域とのかかわりに関心をもたせるために、アンケートをもとに、カルテを作成し、話し合いの流れを考えておく。  <b>学ぶ意欲・態度</b> ・ 人とのかかわり・地域の行事とのかかわり ・ 地域の公共物・公共施設とのかかわり ※ 意欲を高めるために、カードは児童が自主的にとれるように、コーナーを設置しておく。  <b>学ぶ意欲・態度</b>  ※ 校区には、様々な人や場所があることに気付き、それらについて調べたいという気持ちを高めるために、カードをもとに全体交流させ、板書していく。 また、まだ調べたりないところを児童に自覚させ、もっと地域のことを知りたいという意欲を高めるために、拡大地図を活用した板書をしていく。 <b>課題を発見する力</b> ※ カードは前もって見取り、コメントやシール等を貼っておく。 <b>課題を発見する力</b>
課 外	二 組 本 時		
や っ て み よ う	11	2 探検しながら、地域のよさや自分とのかかわりについて考える。 ② (1) 1回目の探検をしていき、校区のすきなところを見つけてカードにかく。  ① (2) カードをもとに交流し、友達同士でよさを認め合ったり、もっと調べていきたいところをつかむ。	※ 児童の関心や思いに合わせるために、探検はコース別に教師がT Tの形をとる。 <b>人・もの・ことにかかわる力</b> ※ 探検の後、次への交流につながる気付きのところにシールを貼り、一人一人コメントを書くことで、地域のよさを広げ深めていく。 <b>考える力[よさに気付く]</b> ※ コース別のグループの中で交流を行わせることで、地域にはよさがあり、自分との生活とかわりがあることに気付かせる。 <b>考える力[かかわりに気付く]</b> ※ より自分からかかわれるように、よいインタビューの仕方を知ったり、五感を使って気付いたことをかくことよさに気付かせたり

<p>① (3)話し合ったことをもとに、探検の計画をたて、より深く知ることができる方法をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの仕方</li> <li>・五感をつかって調べる</li> <li>・写真等の活用</li> </ul> <p>② (4)2回目の探検に行く。</p> <p>①一組本時 (5)2回目の探検をもとに、1回目よりもさらに見つけた〇〇のいいところについて交流しあう。</p> <p>① (6)探検の計画をたてる。</p> <p>② (7)3回目の探検をする。</p> <p>① (8)探検してみつけたよさについて交流し、地域の人々への感謝の気持ちを高め、伝えたいという願いをもつ。 いいところをすきなところへと高める。 <b>校区の町には、大すきな場所や人がたくさんあったよ。みんなにつたえたいな。</b></p>	<p>① (3)話し合ったことをもとに、探検の計画をたて、より深く知ることができる方法をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの仕方</li> <li>・五感をつかって調べる</li> <li>・写真等の活用</li> </ul> <p>② (4)2回目の探検に行く。</p> <p>①一組本時 (5)2回目の探検をもとに、1回目よりもさらに見つけた〇〇のいいところについて交流しあう。</p> <p>① (6)探検の計画をたてる。</p> <p>② (7)3回目の探検をする。</p> <p>① (8)探検してみつけたよさについて交流し、地域の人々への感謝の気持ちを高め、伝えたいという願いをもつ。 いいところをすきなところへと高める。 <b>校区の町には、大すきな場所や人がたくさんあったよ。みんなにつたえたいな。</b></p>	<p>写真等の道具を使ってもいいことを知らせる。 <b>人・もの・ことにかかわる力</b></p> <p>※ コース別で探検しながら発見カードにかかせていく。そうすることで、かかわって気付いたことをすぐ表現できるようにする。探検後にふりかえりカードを書かせる。そうすることで、自分の思いや願い・地域のよさについて考えたことを表現できるようにする。 <b>表現する力〔かき表す〕</b></p> <p>※ 地域のよさや自分とのかかわりについて友達との気付きと比べたり、自他の気付きのよさに気付くために、コース別的小グループでの交流を行う。 <b>考える力〔よさに気付く・かかわりに気付く〕</b></p> <p>※ より地域のことを知る力をつけるために、ふりかえりカードもとに話し合い、解決策やこれからのめあてを見いだす。 <b>人・もの・ことにかかわる力</b></p> <p>○ 調べるコース・準備するもの等、自分たちでまず考えさせる。 <b>2回目の探検で積極的にインタビューをしたり、たくさんのことを見つけた児童を賞賛することで、具体的にどのようにかかわったらしいのか分かるようにする。</b> <b>人・もの・ことにかかわる力</b></p> <p>○ 探検の後、児童の発見カードやふりかえりカードから、地域の人のよさにつながる気付きを中心にシールを貼ることで、次時、地域の人々への感謝の気持ちを高めることができるようにする。</p> <p>※ 今までのカードをもとにグループで交流しあい、その後、地域の人々のよさを中心に交流する中で、感謝の気持ちを高め、伝えたいという気持ちを高める。 <b>学ぶ意欲・態度</b></p>
<p>もっとやってみよう</p> <p>① (1)誰に、どのような方法でまとめるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々・・・家族・公民館・〇〇の人・〇〇さん(1年生等)</li> <li>・方法・・・パンフレット・新聞・劇紙芝居・クイズ</li> </ul> <p>④ (2)自分で選んだ方法でまとめる。</p> <p>① (3)自分でまとめたものが、相手に伝わるかどうか、友達同士で見合う。</p> <p>① (4)地域の方(保護者等)に伝える。</p> <p>① 4 今までの学習をふりかえり、これから地域とどうにかかわっていくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習をしてよかったこと</li> <li>・地域のよさ・人とのかかわり・自分ができるようになったこと・友達のよさ</li> <li>・地域とのかかわりについて、これからどうしていきたいか。</li> </ul>	<p>① (1)誰に、どのような方法でまとめるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々・・・家族・公民館・〇〇の人・〇〇さん(1年生等)</li> <li>・方法・・・パンフレット・新聞・劇紙芝居・クイズ</li> </ul> <p>④ (2)自分で選んだ方法でまとめる。</p> <p>① (3)自分でまとめたものが、相手に伝わるかどうか、友達同士で見合う。</p> <p>① (4)地域の方(保護者等)に伝える。</p> <p>① 4 今までの学習をふりかえり、これから地域とどうにかかわっていくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習をしてよかったこと</li> <li>・地域のよさ・人とのかかわり・自分ができるようになったこと・友達のよさ</li> <li>・地域とのかかわりについて、これからどうしていきたいか。</li> </ul>	<p>○ 様々な人に伝えたいという願いが児童からでると考えられる。2学期は、今まで交流していない地域の人々に伝えるように促していく。</p> <p>※ 発見したことを相手に分かりやすく伝えたり、自分と相手の意見を比べたりして交流する力をつけるために、ポスターセッションでの交流活動を位置づけ、お互いにいいところを見つけ合わせる。 <b>表現する力〔説明力・比較・関連〕</b></p> <p>※ 地域のよさが分かり、自分が地域とどうにかかわったらいのか適切なかかわり方に気付く力をつけるために、今までのカードを児童にもたせ、それぞれの場所別によさを発表させる。そして、自分は地域にどのようにかかわっていきたいか考えさせる。 <b>考える力〔自分をふりかえる〕</b></p>

5 本時の目標

- 自分が今まで探検して発見したことを話し合う中で、地域のよさや友達考える力〔よさに気付く〕のよさに気付くことができる。
- より地域のことについて知りたいという願いをもつことができる。学ぶ意欲・態度

6 本時指導の考え方

今まで児童は、地域を探検して、地域のことについて気付いたことを発見カードにかいたり、自分の思いや願いをふりかえりカードにかいてきた。本時では、それらのカードを活用して小グループで話し合う活動を取り入れる。そのことで、児童一人ひとりが自分の気付きを十分に表現したり、友達と自分の気付きを比べたりして、地域のよさについての気付きを高めることができると考えた。そこで、手立てとして、小グループで話し合う時に、探検を通してかきためていった発見カードとふりかえりカードを活用する。見やすいように、今までの発見カードとふりかえりカードを見開きで見せ合うことができるように、ファイリングしておく。

そして、発見カード・ふりかえりカードの中の気付きを教師は前もって見取り、コメントを書いておく。

コメントの例

「共感」・・・「デイケアサービスの人は、とてもお年寄りに優しいなと思いました。」

→「そうですね。とても優しくったね。」

「認め」・・・「公民館には、いろいろな人がきていました。〇〇さんのお母さんもいました。」

→「よく気がついたね。他にはどんな人がいましたか？」

「促し」・・・「校区の漁港の近くには、神社があります。今度、それを調べてみたいです。」

→「是非今度調べてください。」

「神社の中をみてみたいけれど、誰に頼んだらいいか分かりません。」

→「そうですね。近所の〇〇の漁師さんに頼んでみましょう。」

これをもとに同じ場所にいった児童同士でつくった小グループで交流する。気付きをより多く出せるように、小グループの人数は、3人ないしは2人にする。どのように交流するかは、交流の仕方を掲示することで分かりやすくする。より親密に交流できるように、机は外し、椅子に座ってする。交流することでより意欲的に地域のことを知りたいという意欲を高めるために、それぞれの発表が終わった後、「自分もそう思った。」「自分は気付かなかったけれど、こんないいことがあったんだ。」と思ったところにシールを貼らせる。

小グループ内での気付きの高まりの例（よさ見つけタイム）

「共感」・・・「初めてインタビューしてきんちょうしました。でも、言ってよかったです。」

→「ぼくもきんちょうしました。〇〇さんは、できてえらいなと思います。」

「認め」・・・「公民館には、いろいろな人がきていました。〇〇さんのお母さんもいました。」

→「私も〇〇さんのお母さんをみました。本当にたくさんの方がいてびっくりしました。」

「促し」・・・「公民館で今度読み聞かせがあると聞きました。」

→「今度一緒に行こう。」

小グループ内での気付きの交流（質問タイム）

また、質問の視点を交流前に掲示し、より気付きを高めることができるようにする。

カルテを作成し、交流の支援に活かす。

	氏名	1回目の探検での気付き・思い	2回目の探検での気付き・思い	備考
グループ名	〇〇〇〇 △△△△	太極拳・大正琴・してみたい 太極拳・やさしく教えてくれた	やってみた・大正琴について知りたい 〇〇さんのお母さんがいた。	〇〇は、積極的 △に促しをする。
	□□□□ ☆☆☆☆	お年寄りがたくさんいた。 車やお風呂を見せてくれた。	どうしてここにいるのかな。 車の工夫について詳しく知りたい。インタビューができた。	□に××を発表する よう支援する。

小グループの交流の後、クラス全体で、もっと知りたいこと・知ってよかったこと（好きになったこと）を中心に発表させることで、次のめあてにつなげていく。

1回目の探検と比べ、2回目の探検で児童自身ができるようになったことや、もっと詳しく知ったこと・〇〇したい等これからの活動の意欲につながるようなものについて児童同士が認め合う話し合いの時間をとる。困ったこと・助けたことができた時には、コーナーにカードをはることで、児童が後日解決策を見いだすことができるようにし、次の活動につなげていく。

本時の主張点

本時では、探検活動をもとに、前よりも地域のよさや友達考える力〔よさに気付く〕のよさに気付き、より地域を知りたいという願いをもつことをねらっています。そのため、探検をして気付いたことをかいた発見カードや、活動後のふりかえりカードをもとに、内容別の小グループで交流する活動と、その後の振り返りカードをもとにして次へのめあてにつなげる活動に重点を置いて交流させていきます。

7 本時の展開

学習活動と内容・予想する子どもの気付き

支援・留意点

1 今までの学習をふりかえり、本時のめあてをつかむ。  
 T：今までみんな校区の町を探検して、1回目はこれだけ好きになったと言っていましたね。今日は、もっと好きになってほしいと思います。  
 めあて

2回目のたんけんてでわかったことや思ったことを話し合い、校区をもっと好きになろう。

2 同じグループ内で交流する。  
 (1) 交流の仕方を確認する。  
 右の表を掲示する。

(2) 交流をしながら、地域のよさや、自分への気付きを広めたり、友達の気付きのよさに気付く。  
 小グループ内での児童の交流の例

デイケアグループ  
 「お風呂や車がおもしろかったよ」「どうしてあんな車があるのかな?」「デイケアの人は遠くから来ていたよ。」

公民館グループ  
 「太極拳を教えてもらったよ。」「公民館の館長さんにいろいろ教えてもらいました。」「今度、絵本の読み聞かせがあるからいってみたいな。」

〇〇グループ  
 「船がたくさんありました。」「土曜日に夕市があると聞きました。」「夕市は何時からですか。」「今度いってみたい。」

ハイマート・郵便局グループ  
 「ハイマートでは、たくさんのお客さんがくると言っていました。」「何人くるのですか。」「郵便局の人はとても優しくかったです。」「ポストの中を見せてくれました。」「ポストの中は、どんなでしたか。」

3 交流しての思いをふりかえりカードに書く。  
 T：知ってよかったことや、友達のいいところいっぱいみつけたかな? カードに書いてください。  
 ふりかえりカードの例

校区の町がすきになりました。訳はみんながやさしいからです。(桃)

公民館で絵本読みがあることを知ってよかった。今度行ってみたいです。(黄)

校区の神社のこりが知りたいけれど、どうしたらいいかな。(水)

↓  
 知ってよかったこと 好きになったこと  
 ↓  
 もっと知りたいこと  
 ↓  
 困ったこと

4 ふりかえりカードをもとに交流し、次時へのめあてにつなげる。  
 (1) もっと知りたいこと・知ってよかったこと・好きになったことを話し合う。  
 (2) 友達にほめられたことや、友達のいいところを話し合う。  
 (3) 助けてほしいこと・困ったことを話し合う。

T：1回目の探検に比べて、校区の町がどれだけ好きになりましたか?

T：これからももっとたくさん校区の町について知って、もっと大好きになろう。

○ 1回目の探検の様子の写真や、交流後の気付きをまとめたものを掲示してふりかえりをしやすくする。  
 ○ 1回目の探検で気付いたことでどれだけ〇〇の町がすきになったか、前時に作ったハートを掲示して、次のめあてにつなげる。

※交流の仕方は以下のようにする。

- ①発表は順番にする。
- ②よきみつけタイムの時  
発表の時は、知ってよかったことや、知って好きになったことを中心に話す
- ③ファイルを見せながら発表する。
- ④質問タイム  
ア「いつ・どこで・だれが・なにを・どうした」で、ぬけているところをきく。  
イ訳を聞く。・・・「なぜ」をつけて質問する。  
ウ詳しく様子を聞く・・・「魚」ということばがあったら、「どんな魚」というように、「どんな」を付ける。
- ⑤友達の発表でいいと思ったものにシールを貼る。  
これらを黒板に掲示していつでも見られるようにする。

※ 教師は、前時まで作成したカルテをもとに支援する。

〈支援の例〉

「〇〇にいったよね。何が好きになった? どこがすきだった?」「インタビューで何をきいた?だれにきいた?」「探検の時に、〇〇さんは、写真を撮ってましたね。それをみせながら話してごらん。」「館長さんは、なぜ公民館がここにあるのか話してなかったかな?」  
 教師側が用意しておいた写真等を見せる。  
 「訳もあってこれだけ言えたの?素晴らしい。」

※ ふりかえりカードについては、「知ってよかったこと」「もっと町が好きになった」「もっと知りたい・したいことがある。」「もっと知りたいけれど、困ったことがある」という内容のものを書いている児童に発表させ、視点ごとに板書する。そのことで、4の活動につなげていく。

○ (1)(2)については、板書を記録しておき、単元の最後のふりかえりに活かす。

○ (3)については、コーナーに掲示しておき、次時に解決していくことを知らせる。

○ 本時のはじめに比べ、大きくなったハートを児童の前でつくり、掲示することで次への意欲につなげる。

○ 次へのめあてになる言葉を板書する。

## 5 本時の目標

- 「校区のすきなところ」について話し合うことで、自分が今まで気づけなかった地域のよさに関心を持ち、進んで地域に出て調べたいというめあてをもつことができる。

## 課題を発見する力

## 6 本時指導の考え方

前時の学習で、児童たちは自分の住んでいる校区のすきなところについて話し合い、友達に知らせたい人・もの・ことを、課外の時間に発見カードにかいてきている。その際の視点は、①校区の町のすきなところ②すきなわけ、とした。児童達にとってすきな場所と言え、1年生のときからかかわっている公園やいつも行くスーパー、保育園、幼稚園、学校などがあげられる。なぜなら、そこでは友達と会ったり遊べたりするからであり、そのことがその場所が好きな理由にあげられる。しかし、家族や友達以外の地域の人たちが「どこでどんな活動をしているか」には、まだ十分に気付いていない。そこで、周りにある様々な場所や施設、そこにいる人についてもっと知りたいという思いや願いをださせるために、発見カードを活用した交流活動を設定する。

本時は、前時までにかいた発見カードを活用して、自分の好きな場所を発表したり友達の好きな場所を聞いたりして自分の住んでいる校区に関心を持ち、探検に出かけたいという意欲を高める場面である。全体交流を通して児童に、自分の気付きと友達の気付きを比べて共通点や相違点を見いださせていきたい。そのことで、疑問が生まれたい調べに行きたい場所を見つけたりすることができると思えた。

そこで、児童達が自分の気付きと友達の気付きが比較しやすいような黒板の掲示を工夫する。さらに、交流が活発になるように発見カードをもとに児童の気付きをカルテにまとめ、支援に活用していく。また、一人で発見カードをかくことができない児童については、教師が聞き取り、一緒にカードにまとめてさせいく。発見カードの中の気付きを教師は前もって見取り、コメントを書いておく。

### コメントの例

- 「共感」・・・「〇〇先生に会えるから、保育園に弟と妹を迎えに行くことが好きです。」  
 → 「そうか。〇〇くんは、〇〇先生がすきなんだね。」  
 「認め」・・・「わたしがすきなところは公民館です。お友達とよく本を借りに行きます。住所と名前を書いてから、公民館に入るんだよ。」  
 → 「どんな本を借りたの？公民館は本屋さんなのかな？」  
 「促し」・・・「ぼくはハイマートが好きです。お菓子があります。」  
 → 「お菓子が好きなんだね。他に売っているものはないかな？」

カルテを作成し、交流の支援に活かす。

	氏名	好きなおところ	わけ	備考
グ	〇〇〇〇	公民館	本を借りることができる	〇〇に促しをする
ル	△△△△		映画を観に行ったから	△△は積極的
ー	□□□□	4. 8の公園	虫がいっぱいいるから	他の場所にも目を
プ	☆☆☆☆	とんがり公園	バッタがいっぱいたから	向けさせる。

全体交流は、まず、自分の見つけた「〇〇のすきなおところ」をたくさん出させる。そのときに、子どもの発表に合った写真を教師が掲示したり子どもが掲示したりすることで、それらを分かりやすくする。次に、お互いに質問し合うことで、〇〇には自分の知らないところがあることや、あまり詳しく分かっていないことに気付かせる。そのために、質問の視点をもたせておく。その後、児童の通学路にあり、日々その前を通っているけれども意識していないであろう場所、例えばデイケアサービスや短期大学等の写真を教師が掲示し「ここはどこにあるか知っているかな？」「だれがいるのかな？」「なにをするところかな？」という質問を投げかける。児童は知っているようで、校区にはまだまだ自分達が知らないことがたくさんあることに気付き、実際に調べに行きたいという思いが高まると考える。

本時の学習の終わりには「〇〇には、ぼくたちが知らないことがたくさんあるんだね。探検に行ってみてみたいな。」「自分たちの住む校区のことをたくさん知りたいな。」「校区の町をよく知らないことがわかったから、調べたいな。」等という自分なりの思いや願いをもたせ、みんなで単元のめあてをつくっていくことができるようにする。

### 本時の主張点

本時では、自分が今まで気づけなかった地域のよさに関心を持ち、進んで地域に出て調べたいというめあてをもつことをねらっています。そのために、自分たちのかいた発見カードをもとに「ふくはまのすきなおところ」について話し合う活動とよく分からないところや知らないところを明らかにできるような話し合い活動を大事にした交流を進めていきます。



7 本時の展開

学習活動と内容・予想する児童の気付き	支援・留意点
<p>1 今までの学習をふりかえり、本時のめあてをつかむ。 T：今日は、みんなが見つけてきた〇〇の町の「すきなところとそのわけ」を教えてくださいと思います。 めあて</p>	<p>○教師は、児童がかいた様々な場所の発見カードを、本時までにとり、それをもとに写真などを用意しておく。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">校区のすきなところについて話し合おう</div>	
<p>2 校区の町のすきなところについて話し合う。 (1) 自分たちが見つけてきた「すきなところ」を出し合い、そのわけを発表する。</p>	<p>※交流の仕方は以下のようにする。 ①すきなところとそのわけを話す。 ②質問と意見を言う。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ぼくのすきなところはハイマートです。お菓子がたくさん売っているから。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; margin-left: 150px;"> <p>お菓子のほかには、なにがありましたか？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>ぼくも、よくいくよ。</p> </div>	<p>質問の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話でよくわからないところ「どうしてかなあ。どこのことかなあ」</li> <li>・もっと詳しく話を聞きたいところ「そのわけを、もっと聞きたいなあ。」</li> <li>「知っていることがほかにもあるの？」</li> <li>※ いつ・どこで・だれが・なにを どうしているのかな？</li> </ul>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>私が好きなのは、海岸です。ヤドカリがいっぱいいたから。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>そうかあ、みんなで捕まえに行ったのに、忘れてた。ヤドカリを捕まえたね。</p> </div>	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ぼくがすきなところは〇〇保育園。〇〇先生に会えるから。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>わたしも〇〇先生に習ったよ。△△くんと同じ保育園だったもんね。</p> </div>	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>わたしがすきなところは公民館です。お友達とよく本を借りに行くから。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>私は夏休み映画を見に公民館に行ったんだよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>本は何冊くらいあるのかな？</p> </div>	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>虫がたくさんいたから私は公園がすき。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 150px;"> <p>公園に、誰と行ったの？他にも誰かいた？</p> </div>	
<p>(2) もっとほかに「すきなところ」がないか、自分たちが気づいていないところがないか話し合う。 ①よくわからないから、行ってみたいところ → どこ？ ②お家の人がよく利用しているところ → なにをしに？ 「これで、校区の町のこと全部わかったかな？」 「校区にしかないところって、あるのかな？」</p>	<p>○児童の発表に合った写真を、教師が掲示したり、児童が選んで掲示したりすることで友達の気付きと自分の気付きを比べやすくさせる。</p> <p>※教師は、前時までに作成したカルテをもとに支援する。 支援の例 「□□さんは、公民館で本を借りているんだね。みんなは、自分の見つけてきたところがなんのためにあるのか知っているかな？」 「△△くんは〇〇先生がいるから、保育園がすきなんだね。友達やお家の人のおかげにも〇〇に好きな人がいる？」</p> <p>○児童から出なかった場所の写真を提示することで、「どこにあるのか？」「だれがいるのか？」「なにをするところなのか？」という疑問をもつことができるようになる。</p> <p>○交流を通して、校区には自分達がまだよく知らない場所や人がいることに気づかせ、めあてにつなげる。</p>
<p>3 交流しての思いをふりかえりカードに書く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>今日はみんなの好きなお店がいっぱい聞けて楽しかったです。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ハイマートになにが売っているか行ってみたいなあ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>先生が見せてくれた漁港はどこにあるのかな？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">↓ 知ってよかったこと 楽しかったこと</div> <div style="text-align: center;">↓ もっと知りたいこと</div> <div style="text-align: center;">↓ 困ったこと</div> </div>	<p>※ふりかえりカードに感想を書くことで、地域のよさに気づいたり調べたいという意欲を高めたりできるようにさせる。</p> <p>○ふりかえりカードをかき終わったら、自分の調べに行きたい場所にネームプレートを貼ることで、意欲を高めていく。</p>
<p>4 単元のめあてをみんなで作る。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">校区のまちのすきなところを、たくさんみつけよう。</div>	<p>○「〇〇がすき」という今の気持ちを児童と話しながらハート形の紙で作る、気持ちの変化を大きさで表すことを伝える。</p> <p>○数名の児童のカードを発表させ、単元のめあてを児童とともに確認していく。</p>